自転車安全教室 実践セミナー（座学編）

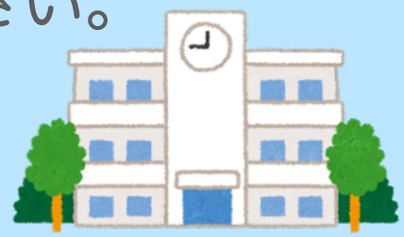
中学・高等学校向け



見てわかる自転車安全教室
開催ポイント解説

見てわかる
自転車
安全教室

本書は長年に渡り多くの学校で実施されている「見てわかる自転車安全教室」（特別活動）開催経験を基に、学校現場で培ってきたプログラム制作のノウハウをまとめたものです。今後の教室開催時の参考・応用の手引きとしてご活用ください。



発行
一般社団法人　市民自転車学校プロジェクト(CCSP)

2026年版／令和8年9月改訂

中学・高等学校向け　自転車安全教室（特別活動）開催ポイント解説

1　表紙

2　目次

3　授業は教育主体と創る
（自治体・学校・民間）

4　プログラムに開催校のニーズを
プラスする

5　開催校周辺の自転車事故発生箇所を
見える化

6　他人ごとから自分ごとへ導く
現地写真撮影

7　授業の目的を生徒と共有
（共に向かう方向を示す）

8　自転車安全教育の目的
（安全行動の習得）

9　経験を「安全」に変える

10　生徒への問いかけ
（挙手による全員参加）

11　写真から探す共通点
（事故の傾向と事象）

12　コンビニ・店舗 出入口
要注意危険箇所

13　偶発的な事故への備え
アイテムとしてのヘルメット

14　心に潜む出合い頭事故に
つながる3つの心理・行動例

15　大小交差点で異なる事故メカニズム
を知る

16　右側通行は損！
左側通行するだけで得する

17　歩道通行にもルール有り
歩行者の通行を妨げる行為は違反！

18　歩道で接触事故
自転車過失90%から学ぶ

19　歩道通行の危険
（自動車からは見えにくい）

20　なぜ？交通コミュニケーション
が大切なのか

21　自転車横断帯がある交差点
通り方にはルールがある

22　自転車安全利用3項目

© CCSP

授業は教育主体と創る（自治体・学校・民間）

★ 進め方 ★

❶ 開催校の貴重な時間をいただいて実施する「自転車安全教室」は、教育主体の計画に基づいた「仕様書」により委託業務として行なっています。

❷ 開催校においては、仕様書の業務内容に基づき、開催校毎に事前のヒアリング調査、所轄警察署等からの資料づくり、周辺地域の交通状況等調査により開催校毎の教材を作成します。

★ なるほど解説 ★

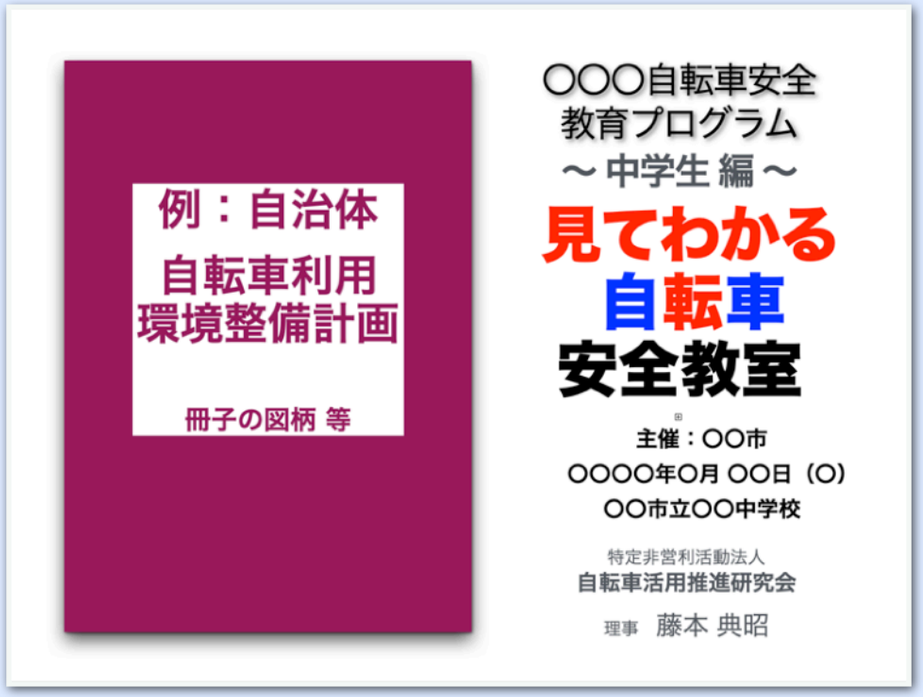
❶ 授業内容は毎回教室開催後に自治体で実施される、受講生・担当教師へのアンケート調査により結果がチェックされる仕組みになっています。

❷ 開催校においては授業内容を事前に共有し、意向等もヒアリングする事で、開催に向けた想いを共有しています。

★ ここがポイント ★

❶ 授業のスタート画面に教育主体を表すシンボル（例：自治体の計画書）を用いて、受講者に向けてのメッセージとしています。

1　授業スタート画面は主催する自治体の「計画書」



（例）中学校向け

2　授業に使用する教材は開催校毎の特別仕様



（例）中学校向け

© CCSP

プログラムに開催校のニーズをプラスする

★ 進め方 ★

❶ 開催校へは右のチェックシートを使って事前ヒアリングを行います。

❷ チェックシートは、開催校の自転車利用状況についての現状確認の他、学校周辺の交通状況と生徒へ届けたい先生側のメッセージ等を聞き取る様式となっています。

★ なるほど解説 ★

❶ 開催校として自転車安全教室に求める事柄は学校により様々であり、貴重な授業時間にそうした教育現場から発せられる生の声をプログラムに反映させる事はとても意義があり大切な事になります。

❷ チェックシートと合わせて事前に学校周辺で発生している自転車事故の状況が分かる地図などで見える化させると、学校側から危険箇所等の情報が共有し易くなります。

★ ここがポイント ★

❶ 自転車安全教室は単にプログラムを押し付けるのではなく、共に「事故を無くす」を目指して「共に創る」ミッションであるという想いのもとで開催することが大切です。

☆ヒアリングチェックシート

受講対象

学校名　　〇〇学校　　ご担当：　〇〇先生
住所　〇〇〇〇
事前打合せ日時　令和　〇〇年　〇〇月　〇〇日　〇〇時 〇〇分から
校区　地図上で範囲の確認
全校生徒数　〇〇人
受講対象学年　〇年生
受講人数　〇〇〇人
実施日　（ 〇〇〇〇年）令和　〇〇年　〇〇月　〇〇日 (〇曜日)
実施時間　〇〇：〇〇から〇〇：〇〇　（〇〇分）
当日入校時間：30分前に会場入り、PCとプロジェクター接続確認、音量調整

自転車利用状況

自転車通学：　可　否　　駐輪場：　有　無　　レインコート干場：　有　無
自転車通学の許可制度：条件
居住エリア（ボリューム）と　通学経路の指定　有　無
利用する交通機関の有無と駅（通学・帰宅後）：　〇〇駅
利用の多い塾エリア：　　商業施設：

部活動の自転車利用：　可　否　　条件等：
部活動での移動範囲：
校区内の危険箇所：地図上にマーキング
過去の自転車事故事例：
自転車利用時の指導（配布物の　有　無）
学校独自のルール：
ヘルメット着用指導：　有　無
傘さし運転への注意喚起：　有　無
イアホン使用の注意：
自転車点検：　有　無　　・車種指定：　有　無
教材作成に当たり：学校側からの要望

会場情報

お借り出来るプロジェクター：　有　無
プロジェクターの信号入力形式：　VGM　HDMI
お借り出来るワイヤレスマイク：本数
使用できるスクリーン：設置状況　吊り下げスクリーン　壁面
教材からの音声出力させる方法：プロジェクター　別途スピーカー　壁面

会場状況　スクリーン前の照明入り切SW：　有　無
暗幕：　有　無　　照明：　LED　水銀灯

会場での生徒着座状態：　椅子　床　　防寒・暑さ対策：

講師：演台・テーブル・椅子は不要　　スクリーンが見やすい配列を希望

教室終了後に生徒・教師　全員にアンケートを依頼する旨の承諾を得る

© CCSP

開催校周辺の自転車事故発生箇所を見える化

★ 進め方 ★

❶ 開催校周辺での自転車事故発生箇所をWEBから確認して地図上に見える化します。

❷ 自転車事故発生箇所は地元の都道府県警察（一部）や朝日新聞社「見えない交差点」等がWEB上で公開されています。

★ なるほど解説 ★

❶ 事故発生箇所を表示する目的は、受講対象者が日常生活しているエリアを対象とすることで、事故が身近に存在している事を知ってもらうことにあります。

❷ 例えば、公立の中学校の場合、校区が特定の限られたエリアになりますが、私立中学校や高等学校等では通学エリアが大きい為、見える化地域を学校周辺に限るなどして、誰もが知っている身近な場所に限るなどの工夫が必要です。

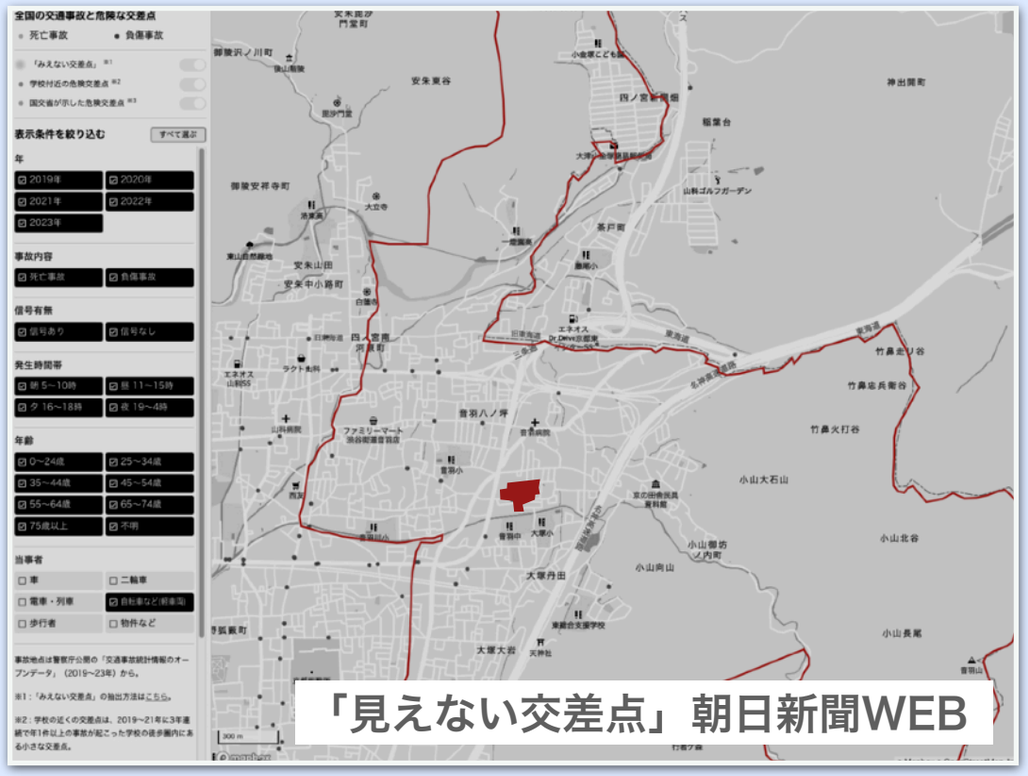
★ ここがポイント ★

❶ 「自転車事故が多い」と言う言葉への反応は人によりバラバラですが、誰しも「自分は事故に遭いたくない」と言う事と、知っている身近な場所で起きた事故は気になるもの、知っておきたい情報となり、他人ごとではなく、自分ごととしての感覚に変わります。

☆学校周辺の自転車事故発生箇所を見える化



☆交通事故データ掲載Webサイト



「見えない交差点」朝日新聞WEB

© CCSP

他人ごとから自分ごとへ導く現地写真撮影

★ 進め方 ★

❶ 開催校周辺の自転車事故発生箇所マップを基に現地に出向いて写真撮影を行なっていきます。場所の詳細についてはWEBデータから確認できます。

❷ 事故発生箇所での撮影は、周囲の交通標識や信号、交通環境等からおおよその事故のイメージを掴む事で、写真から伝えたいメッセージを添えることができます。

★ なるほど解説 ★

❶ 写真撮影の際、気をつけることとして、画角は「自転車に乗車した時に見える風景」であることです。また、撮影した箇所が容易に分かる様にランドマークやサイン等を一緒に写し込むことも大切です。教材にする写真からは顔や車ナンバーを削除します。

★ ここがポイント ★

❶ 自転車事故発生箇所の写真は、現地を知っている受講生にとっては「あの交差点」「あの場所」等と、すぐに自分の記憶と繋がり、身近な知っている場所での事故として記憶される一方で、再びそこを訪れた際「あの交差点」として、自身への「注意喚起」とした意識がリフレッシュされる効果が期待できるものとなります。

☆学校周辺の自転車事故発生箇所マップ



写真撮影は現地が容易に思い浮かぶ画角にする。

☆現地写真には「注意喚起」を呼び起こす効果があります。

© CCSP

授業の目的を生徒と共有（共に向かう方向を示す）

★ 進め方 ★

❶ 授業を始める前に受講者と今日のゴール（目的）を共有することから始めます。この授業は何を掴む為にするのか、はっきりとしたゴールを示すことで共に向かう方向を共有します。

❷ 次に今日伝えたい項目を示します。項目はシンプルに数項目程度に絞り込むことが、最終的に理解を得られたかに関わる大切なポイントとなります。

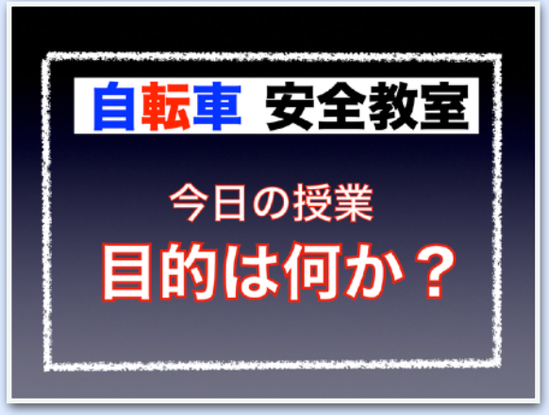
★ なるほど解説 ★

❶ 交通安全教室と名前を聞くだけで『今さら』『知っている』という先入観を持たれることもありますが、この授業は単に聞いて覚えるスタンスではなく、共に学校周辺の安全について今一度確認してみようとするアプローチで進めています。

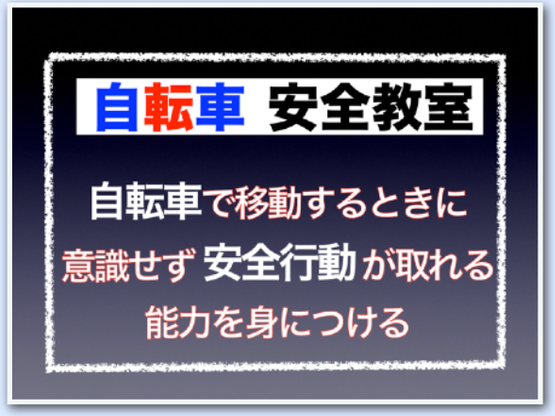
★ ここがポイント ★

❶ 限られた時間の中では伝えられる項目数は限られます。しかし、事故に直結する恐れのある優先順位の高いものを丁寧に伝えることは、受講者にとっても心に残る一言が見つかり、行動変容へと繋がるきっかけとなる可能性があります。単に数を詰め込むことだけを優先しても理解が得られなければ勿体無いことです。

1　受講者への問いかけ



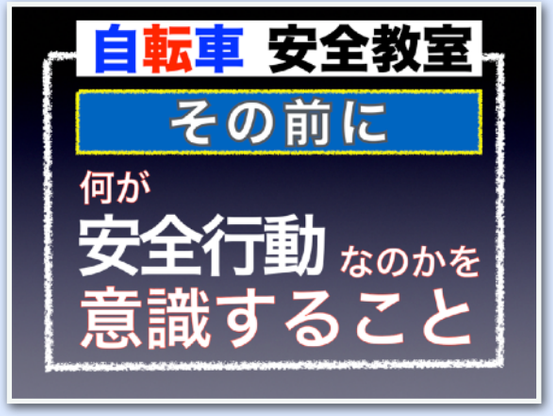
2　今日のゴール（目的）



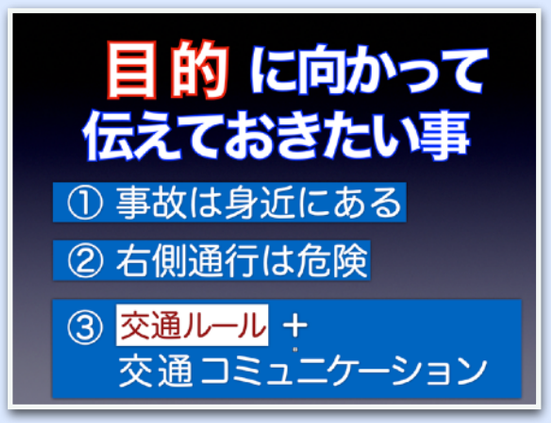
3　今日のポイント



4　最初のステップ



5　シンプルな授業項目



© CCSP

自転車安全教育の目的「安全行動の習得」

★ 進め方 ★

❶ 本プログラムの目的
「公共空間を安全に共有できる自立した交通主体を育てる」

到達目標
「意識せず安全行動が取れる能力を身につける 」

❷ 自転車を利用する公道には、幅広い年齢層が同じ道路空間を共有しています。

❸ 自転車を安全に利用する為には「ルール」が存在し、そこに「マナー」(エチケット）という社会性が必要になります。

❹ 更に「危険予測・事故対応・意思疎通・メンテナンス」といった「行動」が求められます。

★ なるほど解説 ★

❶ 全ての自転車利用者に求められる「安全行動」は、理解力・身体能力の違いに応じた個別の伝え方（教育）が必要です。

❷ 年齢層（ライフステージ）と発達に応じた「教育プログラム」による安全行動の習得が求められます。

★ ここがポイント ★

❶ 自転車安全教育の目的を「自転車のルール（法規）やマナーを覚えて記憶する」ことを目的化していては、自転車利用に必要な「行動」の習得が難しく、事故に繋がる危険を予測し回避する能力も合わせて「習慣化」させることが必要です。

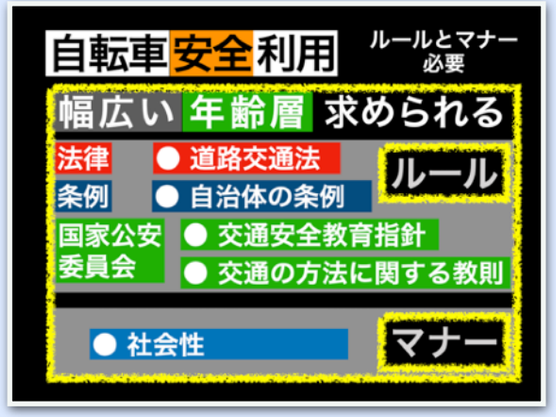
1　自転車利用の状況



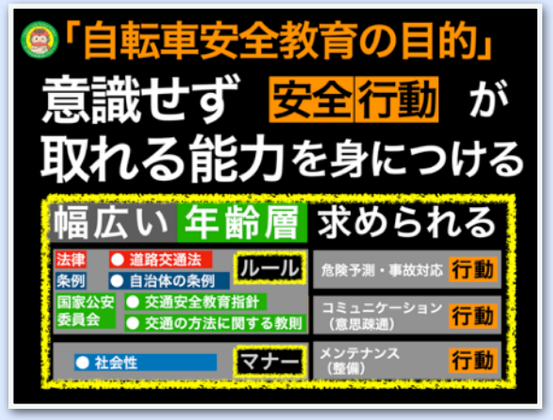


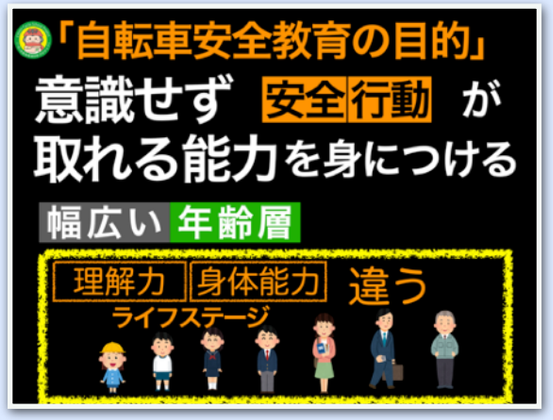
2　自転車を安全に利用するには





3「安全行動」の見える化





© CCSP

経験を「安全」に変える

★ 進め方 ★

❶ 「ヒヤリハット」は誰もが知っていますが、多くは他人ごとと感じています。受講者に「経験したことのある人」と挙手を求めるアクションはとても大切です。

❷ 特に挙手が少ない時は何度も何度も「ヒヤリやハットしたことが本当に無いのですか？」と受講者に声を掛けること。受講者は周りを見渡して徐々に手を挙げて参加してもらうことを大切にしています。

★ なるほど解説 ★

❶ 「ハインリッヒの法則」（1：29：300の法則）とは、アメリカの損害保険会社の安全技師ハインリッヒが、労働災害の統計から導き出した経験則で、自転車事故の発生比率を示す統計ではありません。

★ ここがポイント ★

❶ ハインリッヒの法則300件はただの目安、事故に遭った後で後悔しても遅い事。今のヒヤリハットを活かさない手は無い事を自分ごととして感じてもらうことが大切です。



1　受講者への問いかけ

全員が手を挙げられる
雰囲気づくり。



2　ハインリッヒの法則

300件はただの目安。
貴重な経験は重大な
1件にならない為の
学習にする。



© CCSP

生徒への問いかけ
(挙手による全員参加)

★ 進め方 ★

❶ 授業を進行して行く際、ポイントとなる部分には、受講者への確認の為の問いかけや、挙手を求める部分を予め教材に設定しておきます。

❷ 授業には可能な限りイラストや画像を多く取り入れ、パッと見ただけでも、それが何を意味するのかを把握しやすいようにします。一方で文字は補足程度に抑えています。

★ なるほど解説 ★

❶ 受講者は自らの挙手により意思表示をする事で、授業への参加意識が上がると共に「知る→理解→納得→腑に落ちる」からの行動変容へと向かうきっかけへと繋がって行く事が期待できます。

★ ここがポイント ★

❶ 受講者への問いかけは、授業のメリハリの一つにもなると共に、固まった体を動かすことによるリフレッシュ効果も期待できます。

❷ 挙手に選択肢がある場合、手を挙げた先の指の数で意思表示を行うなど、挙手しやすい環境をつくる工夫もあります。

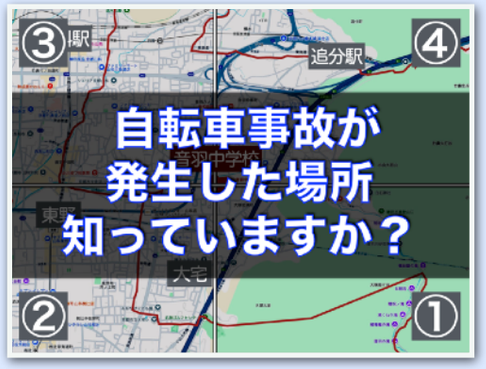
1 経験者への挙手要求



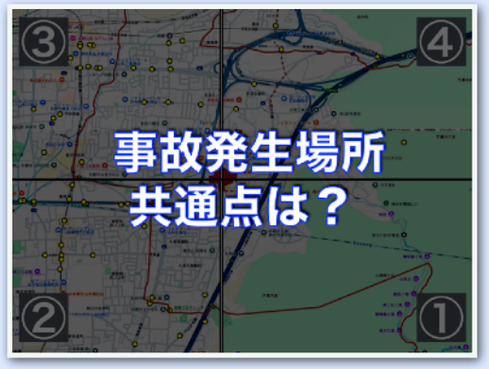
2 自身の生活エリアを聞く



3 事故情報を問いかける



4 共通点を問いかける



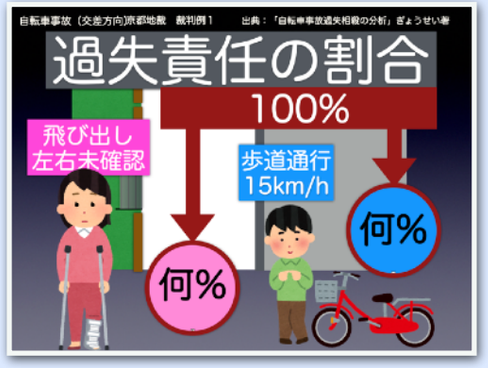
5 危険行為の問いかけ



6 徐行速度の問いかけ



7 過失度合い%問いかけ



8 信号機番号の問いかけ



© CCSP

写真から探す共通点
（事故の傾向と事象）

★ 進め方 ★

❶ 地図に記された自転車事故発生箇所と、その場所を大きく拡大した写真を次々と見ながら、事故現場に共通するキーワードを探し出すミッションです。

❷ 事故現場写真から見える共通点とデータが示す事故の傾向と事象を共有します。

❸ 身近な場所を例にした事故の事象を「もしかしたら」としたイラスト表現でわかりやすく伝えます。

★ なるほど解説 ★

❶ 写真を紹介する際は学校を中心としたXY軸で校区を四分割する事で、受講者がより自宅や通学ルートがあるエリアを注目できるようにして、エリア毎の解説も入れながら、より身近な情報として共有します。

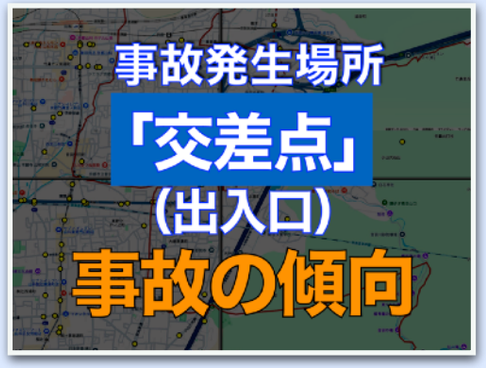
★ ここがポイント ★

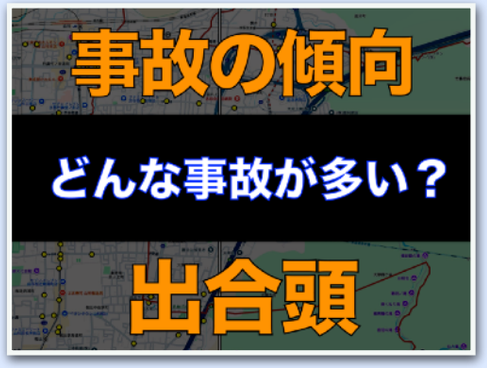
❶ 自転車事故に関する安全啓発と称して用いられる教材には、リアルなドライブレコーダー映像を使用しているものがありますが、受講者にとって過度に恐怖を与える可能性があります。授業では身近な風景となる事故現場の写真を使いつつ、ソフトなイラストを動かしての事象再現にしています。

写真から共通点を探す（学校を中心に4エリアに分割）









「自転車関連事故の約8割が自転車対自動車事故」



「出合頭の再現」



© CCSP

コンビニ・店舗 出入口 等
要注意危険箇所

★ 進め方 ★

❶ 開催校周辺の事故を確認すると、交差点のほか、コンビニ・店舗・ガソリンスタンド等の出入口でも事故が確認されることがあります。

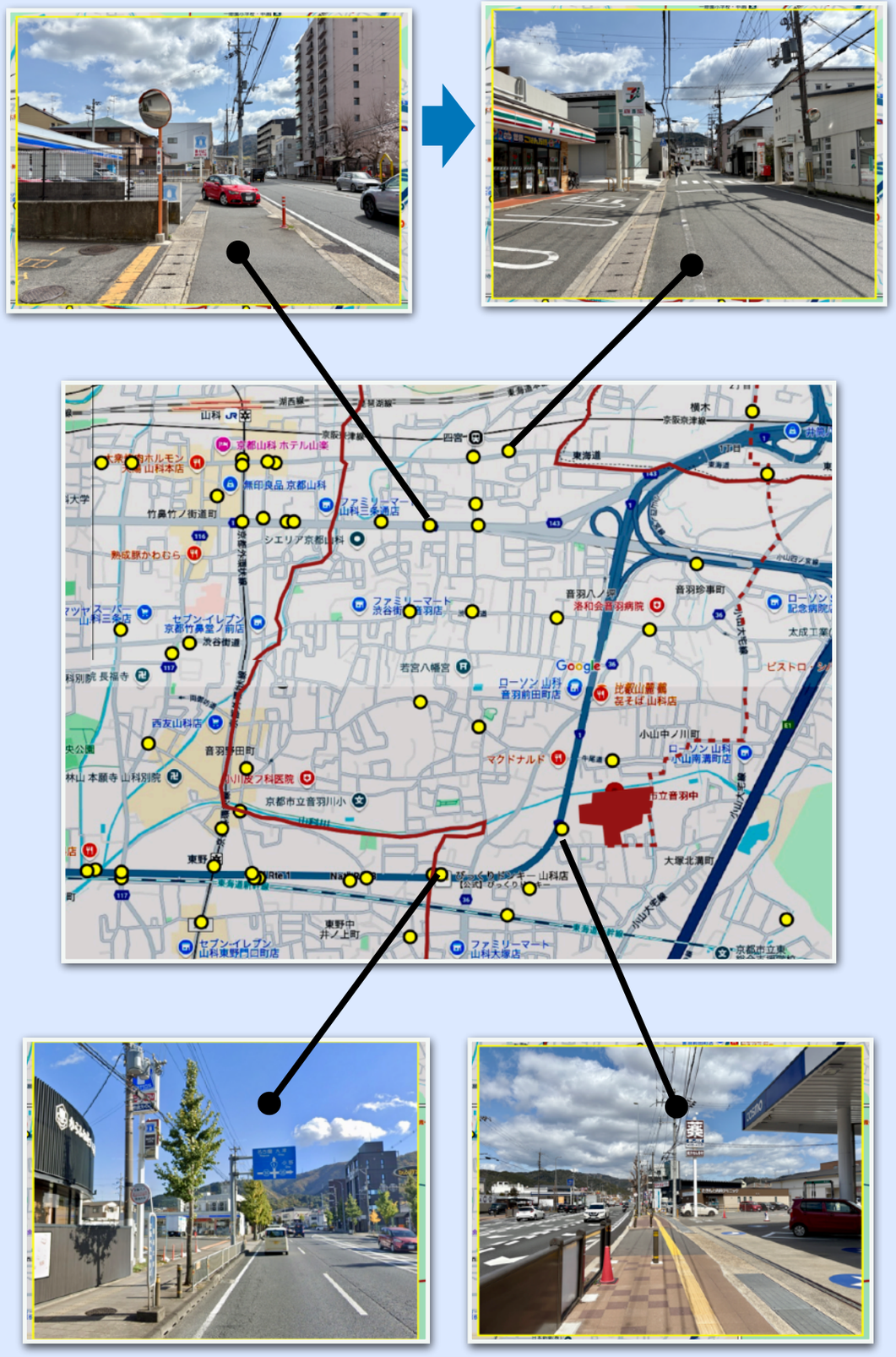
★ なるほど解説 ★

❶ コンビニや店舗、ガソリンスタンド出入り口は要注意です。

特に店舗出入口では、自動車と自転車の動線が交錯するため、出入りする自動車への注意が必要です。

★ ここがポイント ★

❶ コンビニや飲食店等の出入口付近では車道から入って来る車のみならず、店舗等から出て行く車に対しても動きを確認する必要があります。



© CCSP

偶発的な事故への備え
アイテムとしてのヘルメット

自転車安全教室で必ず出てくる「ヘルメット着用の推進」について伝える際の一例です。

★ 進め方 ★

❶ ヘルメットの有効性を「知っている」から「着用」しようと行動変容を促すには「伝え方」が大切です。

★ なるほど解説 ★

「誰にでも起こり得る自転車乗車中の転倒」
転倒は、意図せず、突然、起こります。
転倒でどのような状況を迎えることになるのか？
どういう状況になるのかは、事故では「選べません」

「運を天に任せますか」
今後の生活を一変してしまうかもしれない致命傷だけは防ぎたいと誰しも祈りますが、保険的な対策を選ぶかは貴方次第。

★ ここがポイント ★

頭部を保護し、事故時の被害を軽減する備え・アイテムとしての「ヘルメット」という選択肢があることをわかりやすく伝える事が大切です。





「急な飛び出しに避けきれず」

「濡れたマンホールの上で」

「道の段差や路肩の砂で」









© CCSP

心に潜む出合い頭事故につながる3つの心理・行動例

★ 進め方 ★

❶ 自転車対自動車事故では『出会い頭事故』が多く発生しています。

❷ 出合頭事故では、安全不確認や一時不停止等が多く見られます。授業では、その背景となり得る心理・行動例として『ながら』『気の緩み』『焦り』を取り上げます。

❸ この３つは、何れも自分が自ら起こす行動です。

★ なるほど解説 ★

❶ ながら運転、特にスマホの画面を見ながらの片手運転は16歳以上・青切符の対象ともなる危険な行為です。

❷ ヘッドフォンやイヤホンで音楽を聴きながらについても合わせて紹介するとわかりやすいです。

★ ここがポイント ★

❶ 「３つの危険」という表現で伝えると印象に残り易い。

「３つの危険」とした表現











「心に潜む危険」自分次第で事故は防ぐことが出来る。

© CCSP

大小交差点で異なる事故メカニズムを知る

★ 進め方 ★

❶ 自転車の出合頭事故について、校区内の大小タイプの異なった交差点を例にして学びます。現場は受講生誰もが知っている場所となる為、身近に感じられ自分事として捉えてもらえ易い様に工夫をしています。

❷ 見通しの悪い小さな交差点と、見通しの良い大きな交差点とで、発生する出合頭事故について、何が危ないのか何故危険なのかについて、イラストを動かす等、理解を深める工夫が大切です。

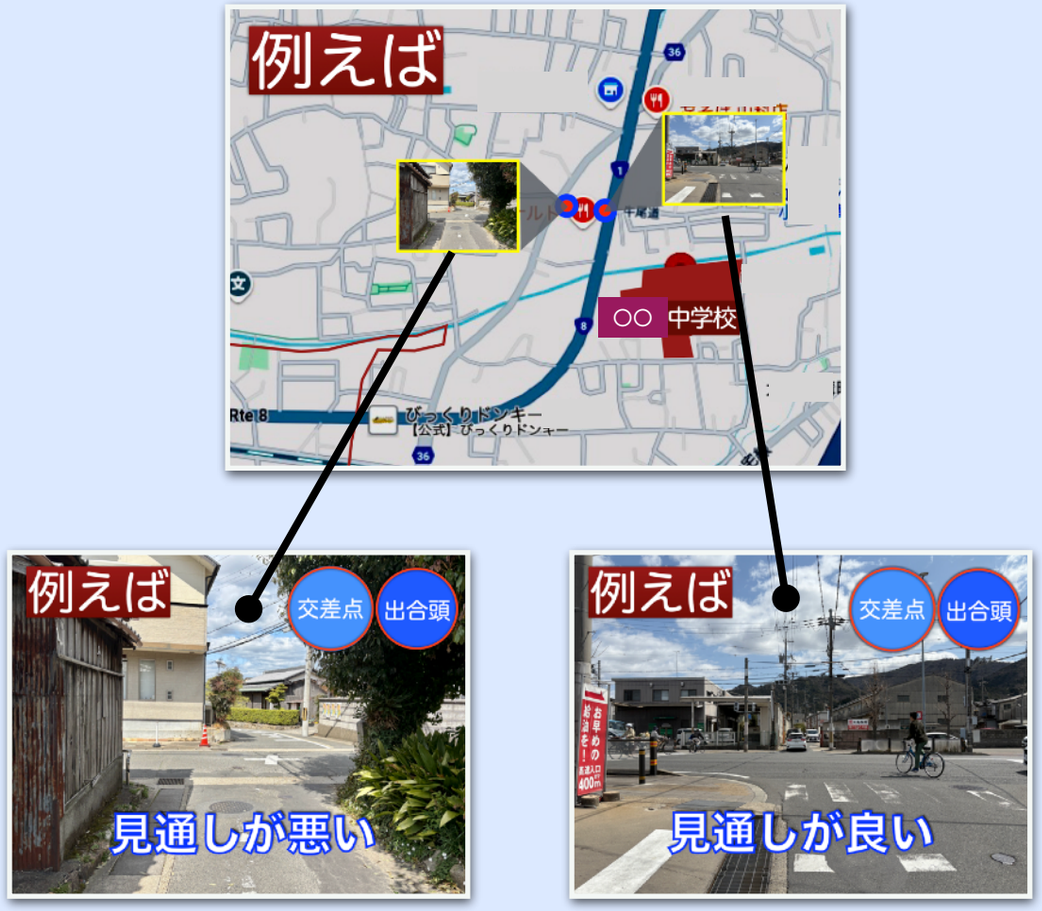
★ なるほど解説 ★

❶ 大きさの異なる交差点で、同じ「出合頭」が原因となる事故が何故発生してしまうのか、この項目を始める前に一旦受講生に質問の形で問いかける事が大切です。

★ ここがポイント ★

❶ 自分には相手が見えていても、相手からは自分が見えていない、あるいは気づいていない場合があることについて「知る」から「理解」へと深めてもらう狙いがあります。

校区内の２種類の交差点



見通しが悪い交差点

見通しが良い交差点





交差点での同じ事象「出合頭」に潜むメカニズムの違い

© CCSP

右側通行は損！
左側通行するだけで得

★ 進め方 ★

❶ 自転車で車道を通行する際、道の左右どちら側を通行するのかによって事故リスクが大きく違います。

❷ 伝える際「自転車は左側通行」とルールそのまま伝えるのではなく「自転車の右側通行は危険で損」とした進め方をしています。

❸ 右側通行の事故リスクが分かる写真から、事故件数の違い、理由を丁寧にイラストを見ながら説明します。

★ なるほど解説 ★

❶ 自転車で道を走るときに、道の左右どちらを通行しているのかを意識する事から始める。

❷ 交差点をショートカットして「得した」つもりが、事故に遭う「損」する危険な行為になる写真を駆使した説明

★ ここがポイント ★

❶ 走る側を気にすることで事故に遭わないで済むという「得する」ことになり、自分から事故に遭う右側を走って事故に遭う「損」はしたくないのは誰しも共通している。

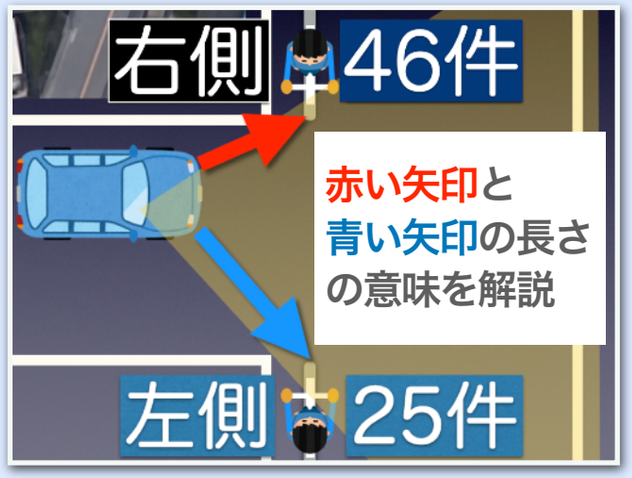
右側通行の事故に遭うリスクを説明する資料





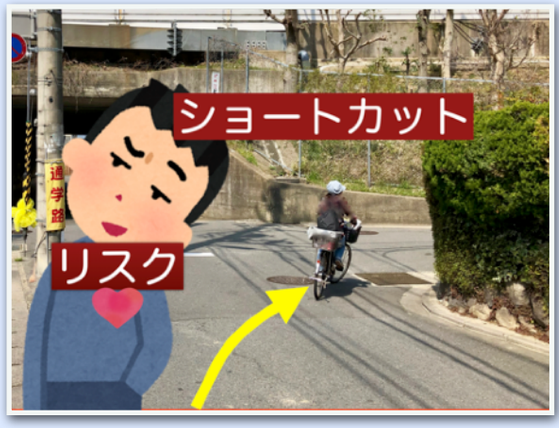
東京都内の幹線道路15.2km区間にある細街路との交差点群をまとめた事故分析

交通量を加味した事故発生率
歩道右側通行46件（0.761）歩道左側通行25件（0.119）
車道右側通行8件（1.5）車道左側通行0件　発生率約6.4倍



※6.4倍は、この調査区間における『歩道右側通行／歩道左側通行』の事故発生率比較
幹線道路と細街路との交差点での事故比較
2002～2005年・東京都内の特定15.2km区間の分析で、全国一律の事故率ではない

出典：国土交通省国土技術政策総合研究所
金子・松本・蓑島「自転車事故発生状況の分析」2009





ショートカットは右側通行

© CCSP

歩道通行にもルール有り
歩行者の通行を妨げる
行為は違反！









自転車の歩道通行は「歩道を通らせてもらっている」
立場にある事が大前提となっています。

★ 進め方 ★

❶ 自転車の歩道通行は条件が合えば法的に認められていますが、その場合でも通行方法には制約があります。

❷ 例外①「自転車及び歩行者専用」標識のある歩道である事、例外 ②「13歳未満、70歳以上、一定の身体障害を有する方」、例外③「車道又は交通の状況に照らし、安全確保のため歩道通行がやむを得ないと認められるとき」原則として歩道の中央から車道寄りの部分を徐行。歩行者の通行を妨げるときは一時停止。ただし、普通自転車通行指定部分を通行し、又は通行しようとする歩行者がいないときは、徐行義務の例外として、歩道の状況に応じた安全な速度と方法で進行できます。

★ なるほど解説 ★

❶ 歩道上では自転車としての移動性能は出せないこと、歩行者優先の義務があり、事故を起こした場合には高額な損害賠償責任が生じることがあります。

❷ 自転車の「徐行」は、法律上「直ちに停止できる速度」。警察庁の検討会資料では、自転車が安定して走行できる最も遅い速度として約7.5km/h（大人の早足程度）が一つの目安として示されています。数値で具体的なイメージを伝えることで、普段の歩道走行速度との違いを実感できます。





★ ここがポイント ★

❶ 一瞬で起きてしまう事故に備える『自転車保険』加入の必要性を、『被害者救済の観点』から伝えることが大切。

© CCSP

歩道で接触事故
自転車過失90%から学ぶ

★ 進め方 ★

❶ 「自転車及び歩行者専用」標識のある歩道で、歩行者と自転車の接触事故裁判例から学ぶミッションです。

❷ 事故状況
歩道に面した自宅から出て、左右の安全確認をせず車道方向へ進んだ歩行者と、歩道のほぼ中央を時速10～15kmで走行してきた自転車が衝突。歩行者は転倒し、右大腿骨頸部を骨折した事故です。

★ なるほど解説 ★

❶ 歩行者にも左右の安全確認をしなかった過失が認められましたが、自転車には、歩道上での徐行義務、歩行者優先、前方注視などが求められることから、この裁判では自転車90%、歩行者10%と判断されました。

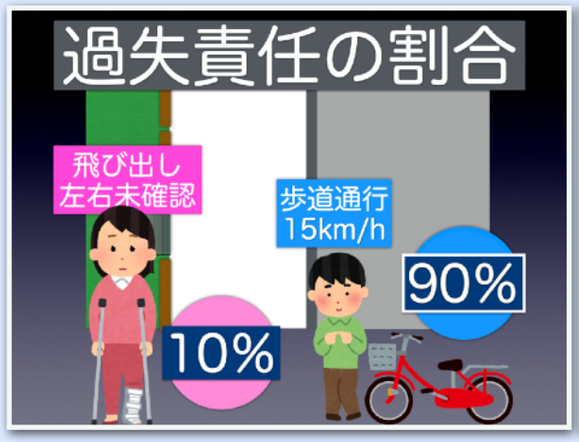
★ ここがポイント ★

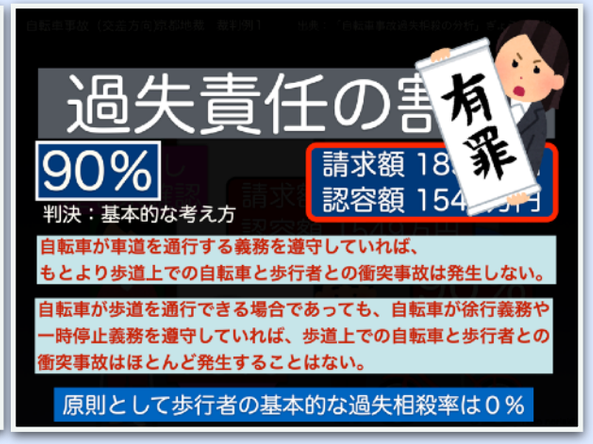
❶ 歩道上を自転車が通行できる例外はいくつかありますが、あくまでも歩行者の通行が優先となり「自転車は歩道を通らせてもらっている立場」となります。

歩道上での歩行者と自転車の接触事故

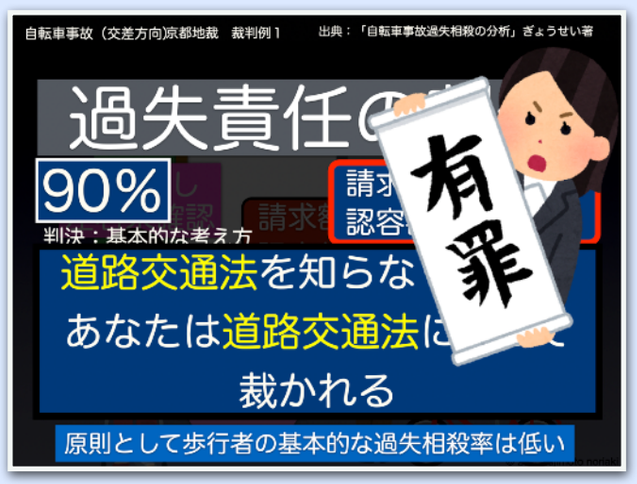


裁判所から出た判決　京都地裁 平成9年10月23日判決





出典：日弁連交通事故相談センター東京支部 過失相殺研究部会編著
『自転車事故 過失相殺の分析』（ぎょうせい）



© CCSP

歩道通行の危険
（自動車からは見えにくい）

★ 進め方 ★

❶ 自転車関連事故の約8割が自転車対自動車事故です。
歩道通行する自転車が自動車から如何に見えにくい
状態なのか、自動車からの見え方をイラストで解説します。

❷ 歩道の途切れる交差点や店舗等の出入口は、自動車との
動線が交錯しやすい場所です。

★ なるほど解説 ★

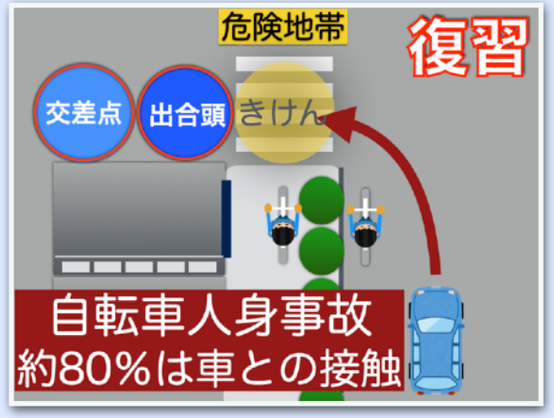
❶ 自転車で歩道を例外的に通行できる条件であっても、出合頭
事故の危険性の高い交差点や出入口を通る際には、改めて近
づいて来る自動車の存在がないかの確認が大切です。

★ ここがポイント ★

❶ 歩道の途切れる交差点に横断歩道や信号機があったとしても、
自動車の運転者からは、歩道上を通行する自転車を認識しに
くい場合があり、自転車を見逃したりし易く、更に歩道上の
街路樹や構造物により視認性は更に悪化します。



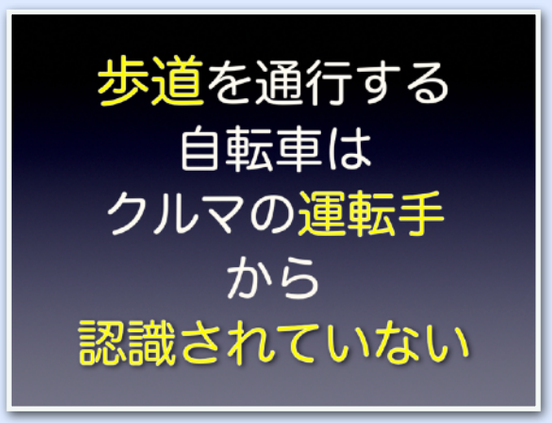
「自転車関連事故の約8割
が自転車対自動車事故」











© CCSP

なぜ？交通コミュニケーションが大切なのか

★ 進め方 ★

❶ 事故から身を守る方法の一つに「自分の行動を周りに知らせる」意思表示と確認をすることが大切です。

❷ 特に路上駐車車両を右に避けて進路変更する際は、後方確認とともに、自分の進路変更の意図を周囲に伝える「ハンドサイン」が有効です。

❸ 意思表示や後方確認をせずに進路変更すると、他の車両に急ブレーキや急な回避をさせるなど、事故につながる危険な進路変更になります。

❹ 自動車のドライブレコーダーは事故やトラブル時の状況確認資料として記録されます。

★ なるほど解説 ★

❶ ハンドサインは、自分の行動を周囲に伝える交通コミュニケーションの一つです。ただし、意思表示をしただけで安全が確保されるわけではありません。相手に伝わったのかを確認することまでをセットとして考えます。

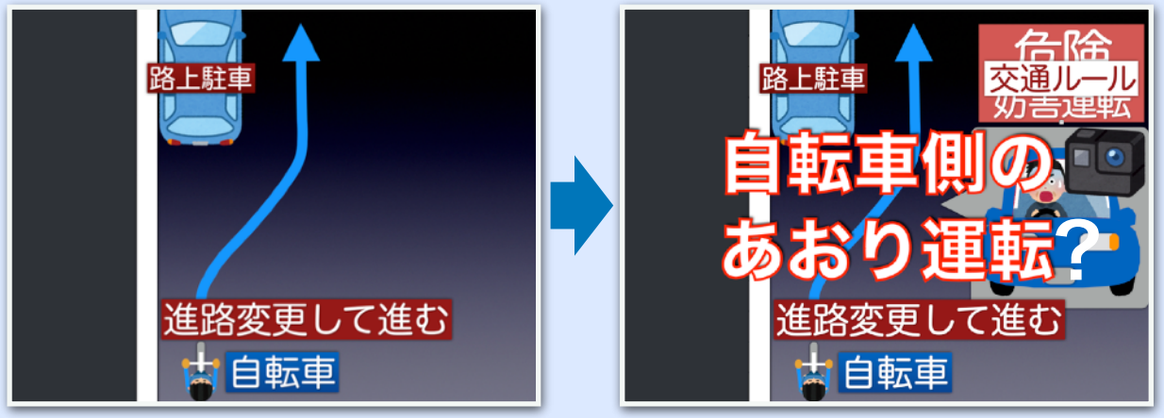
★ ここがポイント ★

❶ 欧州で活用されているスマートなハンドサイン動画で自然な交通コミュニケーションを身につける事が大切です。

✳ 本項では交通コミュニケーションとしての『ハンドサイン』を扱い、道路交通法53条に規定される法定の『合図』とは区別して説明します。



交通コミュニケーションは
事故から身を守る手段の一つ



「※妨害運転罪の成立には『通行を妨害する目的』等の要件があります」



スマートなハンドサイン例



夜間の前照灯やリア反射板



© CCSP

自転車横断帯がある交差点
通り方にはルールがある

★ 進め方 ★

❶ 交差点やその付近に「自転車横断帯」がある場合、自転車はその自転車横断帯を通行しなければなりません。
一方、自転車横断帯がない交差点では、車道を通行してきた自転車は、道路標示等に従い、原則として車道に沿って交差点を通行します。

★ なるほど解説 ★

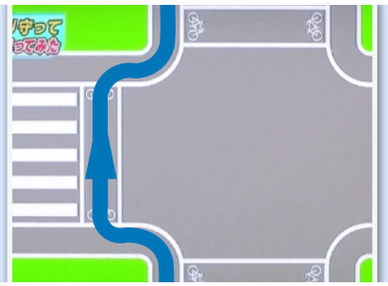
❶ 従う信号は「自転車横断帯の有無」だけでは決まりません。
車道を進行する自転車は原則として「車両用信号」に従います。
ただし、歩行者用信号に「歩行者・自転車専用」の表示がある場合は、車道を通行している自転車も、その歩行者用信号に従います。

★ ここがポイント ★

❶ 「今ある交通ルール」に従うことが大切。自転車横断帯は撤去が進められていますが、現在も設置されている場所があります。
自転車横断帯があれば横断帯を通る。信号はその場所の信号表示を確認する。交差点ごとの道路標示と信号を確認して、安全に通行することが大切です。

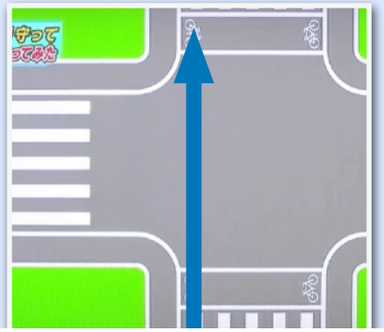


自転車横断帯のルール



「自転車横断帯がある」
→ 自転車横断帯を通行





「自転車横断帯がない」
→ 車道通行中なら車道に沿って交差点を通行



信号のルール



「車道を通行」
→ 原則 車両用信号



『歩行者・自転車専用』表示あり」
→ その歩行者用信号

© CCSP

自転車安全利用 3項目

★ 進め方 ★

❶ ここまでの自転車安全教室で学んだ「安全利用の知識」に加えて、日々の自転車利用において忘れてはならない項目を紹介します。

❷ ① 交通安全（知識と経験：今日の授業）
② 運転スキル（運転操作の技術力）
③ 自転車整備（安全運転に必要な機能の維持管理）

★ なるほど解説 ★

❶ 自転車の二人乗りは原則として禁止されています。ただし、法令等で認められた例外があります。

★ ここがポイント ★

❶ 日々の自転車利用では忘れがちな項目ですが、いざと言う時に大きな差となって来ます。



① 安全利用の知識と経験



② 運転スキル



③ 自転車整備



注意： 二人乗り運転

© CCSP

一社）市民自転車学校プロジェクト
Citizen Cycle School Project